

おいでませ山口へ（リーフレット昭和62-27・28） **集客 ②**

「おいでませ山口へ」はいつから？

《山口県観光のキャッチフレーズ》

山口県の観光のキャッチフレーズとして親しまれている「おいでませ山口へ」。今回の山口県観光キャンペーンでの使用はもちろんのこと、平成23年(2011)に山口県で開催された2度目の国民体育大会の愛称が「おいでませ！山口国体」であったように、今や、山口県への来県を促す言葉として定着しています。

それでは、この山口県の方言「おいでませ」を取り入れたキャッチフレーズは、いつごろから使われ始めたのでしょうか？

このことについて、言語学者の井上史雄氏は、次のように指摘されています。「『おいでませ山口へ』は昭和39(1964)年に誕生しました。東京オリンピック、新幹線開通の年です。……当時方言を使ったのが新鮮で、その後の方言復権のきっかけになりました」。その後、全国各地で類似の観光歓迎方言が使われていったとのこと。中国地方の例としては、岡山県の「おいでんせえ岡山へ」や広島県の「ようき

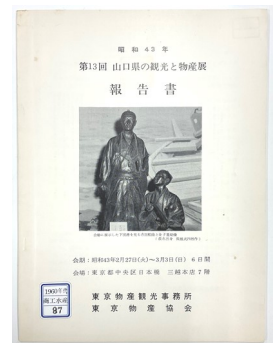
んさったのう広島へ」などが、紹介されています(「観光歓迎方言「おいでませ山口へ」の系譜 西日本編」『WORD-WISE-WEB』)。

《「おいでませ山口へ」の思い出》

「おいでませ山口へ」が全国初の観光歓迎方言だったとの指摘には驚かされます。昭和40年生まれの筆者の記憶では、「おいでませ山口へ」を初めて耳にしたのは中学1年生の時でしたから、1970年代の終わり、昭和53年のことです。その後、この言葉を次第に耳にするようになっていったように思います。

正直なところ、山口県に生まれ育った者としては、あまり耳慣れない言葉であったせいか、「おいでませ山口へ」に少し違和感を覚えた記憶があります。

当時は、本州と九州をつなぐ関門橋が架かり(昭和48年)、山陽新幹線が博多まで開業(昭和50年)、SLやまぐち号の運行開始(昭和54年)、中国縦貫自動車道全線開通(昭和58年)、など県内の交



昭和43年 第13回山口県の観光と物産展 報告書(1960年代商工87)

昭和43年3月開催の「山口県観光物産展」の報告書です。「山口へおいでませ」の使用例を見ることができます。

通インフラが続げざまに整備された時期でした。それに加え、昭和52年にNHKで放送された大河ドラマ「花神」の影響もあり、山口県への観光が脚光を浴びた時期でもありました。

昭和52年発行の当館所蔵のポスターにも、「一枚のきっぷから おいでませ山口へ 山陽路の再発見 山口県・防府市」、「香り高い山陽路の史都 花神のふるさと“防府”」などと書かれています。

前頁の2枚の写真は昭和62年に山口県・山口県観光連盟・山口県観光キャンペーン実行委員会により発行された観光キャンペーンのリーフレットです。そこには「みちゃろうぜ！山口」、「おいでませ山口へ」のキャッチフレーズが使われています。錦帯橋や須佐のホルンフェルスの写真が見えます。このころになると、「おいでませ山口へ」がしっかりと根付いた感があります。

《昭和40年代の「おいでませ山口へ」の使用例》

それでは、もう少し時代をさかのぼって昭和40年代の使用例を当館所蔵の資料から見てみましょう。

下の写真は、列車内に掲げられた車内広告です。「おいでませ海・山岳の山口へ」のキャッチフレーズが見えます。写真には秋芳洞が使われています。「山口県の観光と物産展」という文字が読めますが、この広告からだけでは年代がはっきりしません。しかし、右下に「万国博は新幹線ひかり号で」という広告がありますので、大阪万博が開催された昭和45年のものと分かり、この広告は同年に東京で開催された「山口県観光物産展」の宣伝のためのものであることが分かります。



「山口県観光物産展」は毎年実施されましたが、第13回の報告書が当館に残っています（「昭和43年第13回山口県の観光と物産展報告書」〈1960年代商工水産87〉）。これによると、東京物産観光事務所（現山口県東京事務所の前身）および東京物産協会の主催により、昭和43年2月27日から3月3日にかけて三越本店で第13回山口県観光物産展が開催されています。

右上の写真は、物産展の様子で、「山口においでませ」のキャッチフレーズが見えます。また、関連イベントとして三越劇場で開催された観光映画と郷土舞踊の上演では、最後に「山口県へおいでませ」と呼びかけられ、満

員の会場から限らない拍手が送られたと記されています。



《観光課の設置》

山口県では、昭和44年に、立ち遅れていた観光施策に力を注ぐため、それまでの商工観光課から独立する形で「観光課」が設置されました。

さっそく7月に、「これからの山口県の観光開発」をテーマに、有識者による座談会が開催されました。そこでは、他県に比べ、遜色のない観光資源があるにもかかわらず活かされていない現状や、道路や駐車場の整備の遅れ、点ではなく線として各観光地を結び付ける観光戦略の構築、山口県に是非立ち寄りたくなるような魅力的なキャッチフレーズの必要性、などの提言がなされています（座談会記録「これからの山口県の観光開発」〈1960年代商工水産87〉）。

また、この年には、初めての試みとして、抽選付きの山口県観光絵葉書が作成されました。「年賀状は観光絵葉書で」と宣伝され、抽選により、差出人と受け取り人のペアに山口県観光2泊3日の旅行がプレゼントされました。下の写真は広報資料「県政の動き」に掲載された抽選会の様子で、このページにも「山口県へおいでませ」と記されています（「広報資料『県政の動き』昭和44年10号」1960年代企画221）。

このように、昭和30年代の終わりに誕生した「おいでませ山口へ」は、40年代に徐々に広まり、50年代に定着し、現在に至っているようです。

